



11会合ぶりに利上げ見送りも、年内追加利上げあと2回実施か

ポイント① 11会合ぶりに利上げ見送り

FRB（米連邦準備制度理事会）は6月13-14日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で、事前の市場予想通り、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を全会一致で5.00%–5.25%と決定し、2022年1月会合以来、11会合ぶりに据え置きました。一方、同時に発表されたFOMC参加者のFF金利見通し（中央値）は、23年末時点で5.625%と3月のFOMCで示された見通しから上方修正されました。

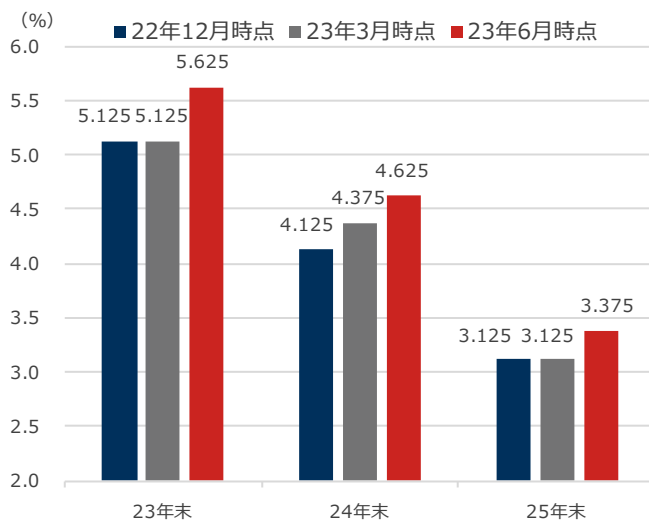
ポイント② 経済見通しは底堅さを示唆

FOMC参加者による最新の経済見通しによれば、2023年の実質GDP成長率とPCE（個人消費支出）コア物価指数は上方修正、失業率は下方修正されたことから、米経済の底堅さを想定していることが窺えます。6月会合では利上げが見送られましたが、FOMC参加者による最新の経済見通しが底堅さを示す内容であったことや依然インフレ率は高く、雇用も堅調なことから、7月以降の会合で利上げが年内あと2回実施されるとの見通しが示されました。

ポイント③ FOMC後の米国市場の反応

FOMCの結果発表直後は2023年末の政策金利予想値が0.5%上方修正されたことを受け、S&P500種株価指数は一時下落、政策金利に敏感な米2年国債は利回りが一時上昇（価格は下落）しました。しかし、パウエル議長の会見で7月以降の利上げが決定したものではないことが示されたことが好感されて回復し、最終的には前日終値付近に落ち着きました。今後の会合で利上げが実施されるのか、また利上げが実施されるとすればどのタイミングになるのか、注目が集まりそうです。

FOMC参加者金利見通しの直近3会合比較



期間：2023年末～2025年末、年次
 ・金利はFF（フェデラル・ファンド）金利
 ・金利見通しは目標レンジ中央値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FOMC参加者経済見通しの直近2会合比較

(単位、%)					
	開催月	2023年	2024年	2025年	長期
実質GDP成長率	23年6月	1.0	1.1	1.8	1.8
	23年3月	0.4	1.2	1.9	1.8
失業率	23年6月	4.1	4.5	4.5	4.0
	23年3月	4.5	4.6	4.6	4.0
PCEコア物価指数	23年6月	3.9	2.6	2.2	-
	23年3月	3.6	2.6	2.1	-

期間：2023年～2025年、年次、および長期
 ・経済見通しはFOMC参加者による見通しの中央値
 ・実質GDP成長率とPCEコア物価指数は10-12月期の前年同期比
 ・失業率は10-12月期の平均値
 （出所）FRB資料（<https://www.federalreserve.gov/default.htm>）より野村アセットマネジメント作成

重要イベント

- 6月27日 米コンファレンスボード消費者信頼感指数（6月）
- 6月30日 米PCEコア物価指数（5月）